

学びのレポート 2025



本レポートについて

i. 本レポートの目的

本レポートは、本学が実施している「学生生活アンケート」の調査結果をもとに、創価大学学部生（以下、創大生）における学びに関する分析結果を各号ごとに観点を変えながら報告していきます。

本レポート結果をもとに ①本学内において創大生の学びの共通理解を生み出すこと、②調査回答者である創大生のみなさんが自身をふりかえり、これからの学びを考える一助となること、③自分以外の創大生の学びについて知ること、自らの学びへの刺激となることを目指していきます。

ii. 「学生生活アンケート」の概要

大学における諸活動の点検・評価と、それに基づく改善・向上の取り組みによる「教育の質保証」が求められている中、「学生生活アンケート」は次の事を目的に掲げています。

1. 創大生における日常生活の実態把握（意識・行動）及び点検
2. 学生意識の側面からの大学運営の点検
3. グローバル教育に関する点検および改善策のための情報収集
4. 本学が提供する学びについて他大学との比較分析を踏まえた教育改善への活用
5. IR データベースと統合し、成績や就職状況等の学修成果に関する分析

上記の目的のもと、「学生生活アンケート」はアンケート実施時において本学に在籍する創大生を対象に悉皆調査として、本学の学習支援ポータルを經由してオンラインで実施しています。直近 2025 年度から 2021 年度のアンケート回収率は表 1 の通りでした。

表 1 学生生活アンケート 回収率

実施年度	①対象者数	②回答者数	③全問回答者数	回答率 (②/①)	全問回答率 (③/①)	全問回答 到達率(③/②)
2021 年度	6,780	3,674	3,171	54.2%	46.8%	86.3%
2022 年度	6,423	2,972	2,604	46.3%	40.5%	87.6%
2023 年度	6,110	3,274	2,756	53.6%	45.1%	84.2%
2024 年度	5,838	3,093	2,545	53.0%	43.6%	82.3%
2025 年度	5,567	2,913	2,400	52.3%	43.1%	82.4%

なお、学生生活アンケートの調査結果概要は、下記の本学 HP にも掲載して公開しており、学内外問わず誰でもアクセスして参照することが出来ます。

学生生活アンケート：<https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/studentsurvey/>

創価大学の教育力が全国トップクラスと評価

i. 文科省「全国学生調査」を活用した比較分析

本学は 2024 年度より、上述した「学生生活アンケート」に文部科学省が実施する「全国学生調査」（以下、「全国学生調査」）の設問を組み込む形で実施をしています。

「全国学生調査」は、日本の大学教育の質を「学修者本位（学生中心）」へと転換させることを目的とした、国内最大規模の公的なアンケート調査です。この調査では、実際に学んでいる学生が「どのような経験をし、どのような能力が身に付いたか（アウトカム）」という視点を重視しています。また、各大学にとっては、全国的な平均値と比較することで自校の強みや課題を明確にし、教育内容をより良くするための貴重なデータになります。学生による率直な回答が、日本の大学教育全体の未来を形作る重要なエビデンスとして活用されていくこととなります。

この「全国学生調査」における「問 1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。」と、「問 3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。」の 2 つ

の設問について、本学の「2025年度 全学平均スコア」、「2024年度 全学平均スコア」、さらに「2024年度 私立大学平均スコア」を比較したものが図1と図2になります。

図1 「問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。」 スコア比較

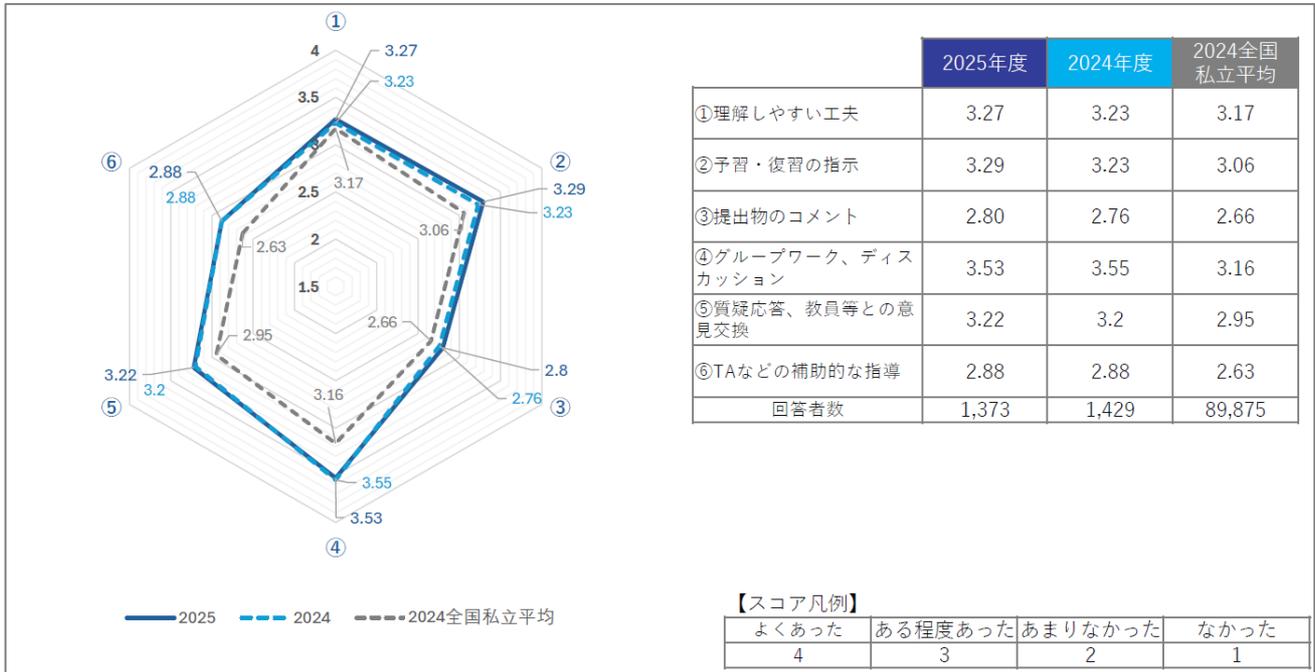
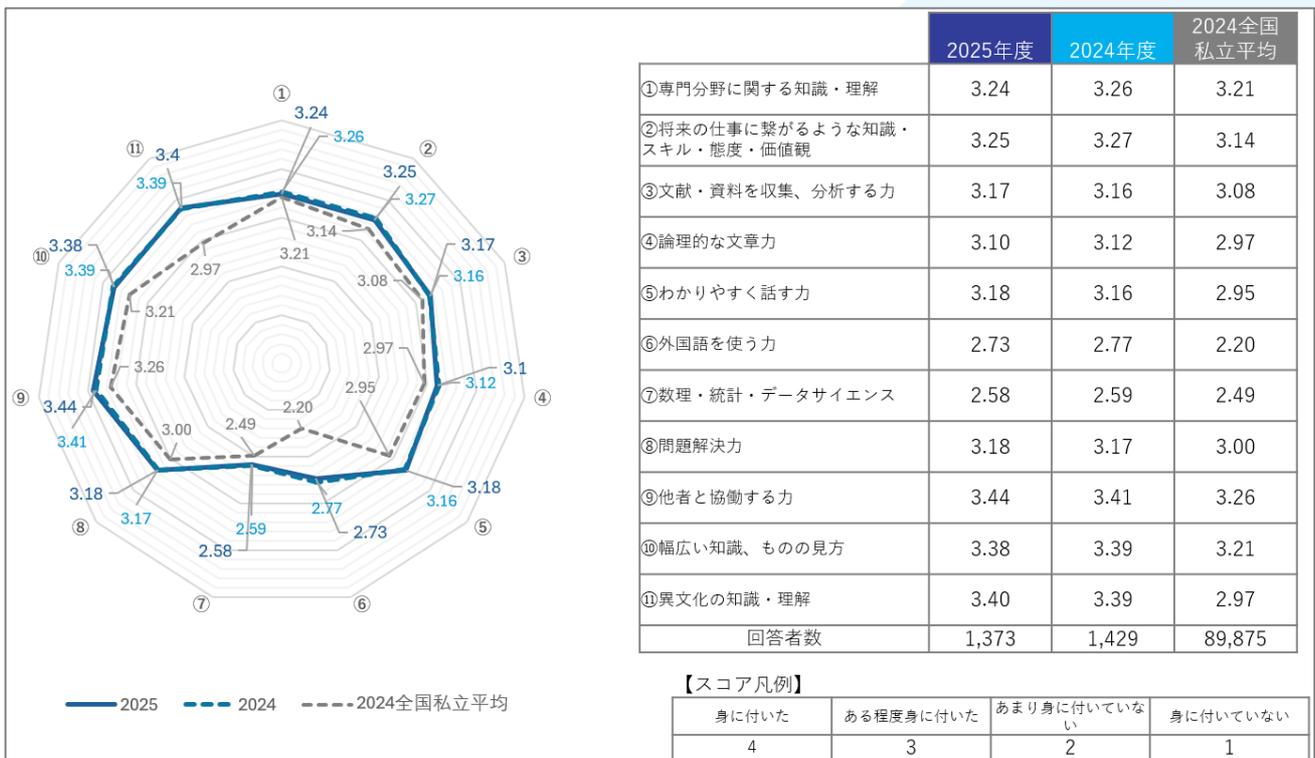


図2 「問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。」 スコア比較



両設問において、本学の全学平均スコアは 2025 年度と 2024 年度でほぼ同水準の結果となっています。その上で、2024 年度 私立大学平均スコアと本学の全学平均スコアを比較すると、2025 年度と 2024 年度ともに両設問のすべての項目で 2024 年度 私立大学平均スコアを上回る結果であったことが確認できます。

特に「問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。」では、「④グループワークやディスカッション」が「2024 年度 私立大学平均スコア」に比べて約 0.4 ポイント上回っています。さらに、「問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。」では、「⑥外国語を使う力」と「⑩異なる文化に関する知識・理解」が「2024 年度 私立大学平均スコア」に比べて約 0.5 ポイント上回る結果となりました。

ii. 全ての学部がポジティブリストに掲載

また、2024 年度に実施された「全国学生調査」では、各大学の回答結果を受けて、「ポジティブリスト」が公表されました。この「ポジティブリスト」とは、学生から特に高い評価を得た項目を持つ大学の学部を分野別に公表する一覧で、回答数や肯定的な回答の割合など、文科省が定めた一定の基準をクリアし、全国的に見て優れた教育実践を行っていると思われる大学が掲載されます。

本学は全学平均のスコアもさることながら、全ての学部がこのポジティブリストに複数の項目で選出されました。各学部の最高順位は以下の通りです。(表 2、表 3) これは、本学が掲げる「学生第一」の理念による取り組みが各学部によって体現され、創大生に確かに届いている証左といえます。

また、本学への評価として顕著に表れたのが、教員と学生の距離の近さです。経済学部が「教員との意見交換の機会」や「教職員の熱心な教育」が分野別で全国 2 位を記録したように、学生一人ひとりの意欲に寄り添い、共に学びを深めていく手厚いサポート体制が本学の大きな魅力となっています。さらに、看護学部の「人に分かりやすく話す力」や、理工学部の「異なる文化に関する知識・理解」においても分野別全国 2 位を獲得しました。これらの結果は、単に専門知識を修得するだけでなく、社会で必要とされる実践的なコミュニケーション能力や多様性への理解が、日々の学生生活を通じて着実に身に付いていることを裏付けています。

表 2 創価大学 各学部ポジティブリスト掲載項目 (公表資料から抜粋、国際教養学部は後述)

学部名	ランキング項目	順位
経済学部	Q8:教員等との意見交換の機会	2 位 (社会分野)
	Q26:教職員が熱心に教育に取り組んでいる	
	Q27:大学の学びによって成長を実感している。	
経営学部	Q24:卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している	9 位 (社会分野)
法学部	Q22:幅広い知識、ものの見方	7 位 (社会分野)

学部名	ランキング項目	順位
文学部	Q7:グループワークやディスカッションの機会	8位 (人文分野)
教育学部	Q7:グループワークやディスカッションの機会	4位 (教育、スポーツ、芸術、 家政分野)
	Q23:異なる文化に関する知識・理解	
理工学部	Q23:異なる文化に関する知識・理解	2位 (理学・工学、農学分野)
看護学部	Q17:人に分かりやすく話す力	2位 (医学、歯学、薬学、保 健分野)
	Q22:幅広い知識、ものの見方	

※上記は各学部の最高順位。各学部が選出された全項目の詳細は、「Appendix:学生調査 2024 ポジティブリスト全掲載」を参照

また、国際教養学部は、「海外留学・研修（短期も含む）」、「主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）」、「外国語を使う力」の3項目で分野別全国1位という快挙を成し遂げ、世界で活躍する力を養う環境が非常に高いレベルで整っていることが示されました。（表3）さらに、国際教養学部はこのポジティブリストに掲載された学部の中でもグッドプラクティス（好事例）として教育方法・教育改善の取組が公表されています。（[リンク](#)）

表3 創価大学 国際教養学部 ポジティブリスト（公表資料から抜粋）

ランキング項目	順位
Q11: 海外留学・海外研修（短期も含む）	第1位 (その他分野)
Q12: 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）	
Q18: 外国語を使う力	
Q7: グループワークやディスカッションの機会	第2位 (その他分野)
Q8: 質疑応答など、教員等との意見交換の機会	第3位 (その他分野)
Q21: 他者と協働する力	

※ランクイン全項目の詳細は、「Appendix:学生調査 2024 ポジティブリスト全掲載」を参照

iii. 高評価獲得につながった本学の取り組み事例

全国学生調査における高い評価は、創価大学が積み重ねてきた教育改善の成果が、創大生の確かな成長実感として結実したものと受け止めています。ここで、本学が「世界市民」として自らの可能性を最大限に引き出せるよう、学生に提供している教育環境や取り組みを紹介します。

「世界市民」を育むグローバル環境

創価大学は「世界市民」の育成を掲げ、72 各国・地域、279 大学（2026 年 1 月末時点）に広がる世界規模のネットワークを構築しています。キャンパス内では全学生の約 10%が外国人留学生であり、日常的に多様な文化や価値観に触れられる環境が整っています。

国際教養学部の取り組みはこのグローバルな教育環境を象徴するものです。国際教養学部では海外留学の必修化、全ての専門科目を英語による少人数ゼミ形式で履修するなど、実践的な語学力と国際感覚を養うカリキュラムが提供されています。こうした環境が、全国学生調査での「海外留学・研修」や「外国語を使う力」における圧倒的な高評価、そして分野別全国第 1 位という結果に大きく貢献しています。

DX を活用した学生支援

本学では、「DX を活用した学生支援計画」を全学的に推進しています。その中核となるのが、独自の IT プラットフォームを通じた「学びの可視化」です。学生は自身の授業アンケートの回答結果やラーニング・アウトカムズに即した学修成果をシステム上で確認でき、これまでの成長の軌跡、今後の「伸びしろ」を自分自身で客観的に把握することが可能です。

さらに、アドバイザー教員によって学生一人ひとりの学修状況に応じた、きめ細やかで的確な修学支援や進路指導が行える体制を整え、デジタルと対面サポートの両輪で、学生の学びを力強くバックアップしています。

対話を重視した教育スタイル

「全国学生調査」において、多くの学部が「グループワークやディスカッションの機会」という項目で上位にランクインしたことは、本学の教育スタイルの大きな特徴を物語っています。創価大学では、教員が一方的に知識を伝達する講義形式に留まらず、学生同士が対話を通じて課題解決を図る「アクティブ・ラーニング」を重視しています。

授業では学生間の意見交換はもちろん、教員と学生が双方向に議論を交わす場面が数多く設けられています。こうした対話中心の学びを継続することで、他者の意見を尊重しながら自らの考えを論理的に伝える力が養われ、社会に出てからも必要とされる高い対人能力の形成につながっています。

創価大学
大学評価・IR 事務室



Appendix : 学生調査 2024 ポジティブリスト全掲載

1. 文学部 (人文分野 : 対象 94 学部)

質問項目	順位
Q7 : グループワークやディスカッションの機会がある	8 位
Q9 : ティーチングアシスタント等による補助的な指導がある	9 位
Q14 : 将来の仕事につながるような知識・スキル等	11 位
Q22 : 幅広い知識、ものの見方	14 位
Q25 : 学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	9 位

2. 経済学部・法学部・経営学部 (社会分野 : 対象 185 学部)

質問項目	経済	法	経営
Q4 : 理解がしやすいように教え方が工夫されていた	5 位	23 位	—
Q5 : 授業時間外に行うべき学習が指示される	7 位	20 位	—
Q7 : グループワークやディスカッションの機会がある	9 位	16 位	21 位
Q8 : 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある	2 位	24 位	20 位
Q9 : ティーチングアシスタント等による補助的な指導がある	6 位	—	24 位
Q12 : 主に英語で行われる授業の履修 (語学科目除く)	11 位	—	26 位
Q14 : 将来の仕事につながるような知識・スキル等	4 位	23 位	19 位
Q16 : 論理的に文章を書く力	25 位	22 位	—
Q17 : 人に分かりやすく話す力	5 位	14 位	19 位
Q18 : 外国語を使う力	4 位	18 位	20 位
Q19 : 数理・統計・データサイエンスの知識・技能	4 位	—	—
Q20 : 問題を見つけて解決方法を考える力	10 位	14 位	17 位
Q21 : 他者と協働する力	7 位	—	12 位
Q22 : 幅広い知識、ものの見方	13 位	7 位	—
Q23 : 異なる文化に関する知識・理解	5 位	15 位	16 位
Q24 : 卒業時の目標を意識した学修	11 位	—	9 位
Q25 : 学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	4 位	16 位	17 位
Q26 : 教職員が熱心に教育に取り組んでいる	2 位	23 位	—
Q27 : 大学の学びによって成長を実感している	2 位	8 位	14 位

3. 理工学部（理学・工学、農学分野：対象 152 学部）

質問項目	順位
Q7：グループワークやディスカッションの機会がある	13 位
Q9：ティーチングアシスタント等による補助的な指導がある	17 位
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル等	14 位
Q16：論理的に文章を書く力	9 位
Q17：人に分かりやすく話す力	9 位
Q18：外国語を使う力	4 位
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力	11 位
Q21：他者と協働する力	6 位
Q22：幅広い知識、ものの見方	8 位
Q23：異なる文化に関する知識・理解	2 位
Q25：学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	4 位
Q27：大学の学びによって成長を実感している	14 位

4. 看護学部（医学、歯学、薬学、保健分野：対象 169 学部）

質問項目	順位
Q5：授業時間外に行うべき学習が指示される	8 位
Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される	21 位
Q7：グループワークやディスカッションの機会がある	8 位
Q8：質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある	5 位
Q13：専門分野に関する知識・理解	6 位
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル等	5 位
Q17：人に分かりやすく話す力	2 位
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力	14 位
Q22：幅広い知識、ものの見方	2 位
Q23：異なる文化に関する知識・理解	10 位
Q24：卒業時の目標を意識した学修	13 位
Q25：学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	5 位

5. 教育学部（教育、スポーツ、芸術、家政分野：対象 136 学部）

質問項目	順位
Q5：授業時間外に行うべき学習が指示される	5 位
Q7：グループワークやディスカッションの機会がある	4 位
Q16：論理的に文章を書く力	14 位
Q17：人に分かりやすく話す力	7 位
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力	15 位
Q22：幅広い知識、ものの見方	5 位
Q23：異なる文化に関する知識・理解	4 位
Q27：大学の学びによって成長を実感している	14 位

6. 国際教養学部（その他分野：対象 67 学部）

質問項目	順位
Q5：授業時間外に行うべき学習が指示される	4 位
Q6：課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される	5 位
Q7：グループワークやディスカッションの機会がある	2 位
Q8：質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある	3 位
Q11：海外留学・海外研修（短期も含む）	1 位
Q12：主に英語で行われる授業の履修（語学科目除く）	1 位
Q14：将来の仕事につながるような知識・スキル等	10 位
Q16：論理的に文章を書く力	9 位
Q17：人に分かりやすく話す力	5 位
Q18：外国語を使う力	1 位
Q20：問題を見つけて解決方法を考える力	7 位
Q21：他者と協働する力	3 位
Q22：幅広い知識、ものの見方	6 位
Q23：異なる文化に関する知識・理解	2 位
Q24：卒業時の目標を意識した学修	4 位
Q25：学生の意見を通じて大学教育が良くなっている	9 位
Q26：教職員が熱心に教育に取り組んでいる	4 位
Q27：大学の学びによって成長を実感している	4 位